

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第10回武蔵村山市男女共同参画推進市民委員会
開 催 日 時	平成21年 3月 23日(月)午後2時 ~ 4時
開 催 場 所	緑が丘ふれあいセンター男女共同参画センター学習室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：(委員)荻原恵子、鴻田臣代、内野登志子、清野智美、宮川文、 鈴木寿子、矢口幸恵、栗原誠、三浦千恵子 (事務局)川島課長、木村主査、橋本主事 欠席者：浜浦秀行
議 題	1 報告事項 (1)第9回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について (2)その他 2 議 題 (1)平成20年度男女共同参画推進市民委員会について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 報告事項 (1)第9回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について (2)その他 2 議 題 (1)平成20年度男女共同参画推進市民委員会について 委員会の活動が情報誌2回の発行、講演会だけで終わるのではなく、委員が勉強をしていく必要がある。また、男女共同参画センターの利用向上に向けて、委員会からふれあいセンター指定管理者に提案する。 (2) その他 (3) 学習タイム 「男性の育児休業体験記の紹介～男性の育児休業について考えよう～」
審議経過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 報告事項 (1)第9回男女共同参画推進市民委員会の会議結果について (事務局)第9回男女共同参画推進市民委員会の会議の結果について報告。 (2)その他 (事務局)「YOU・I」第17号を予定通り3月初旬に発行した。関係機関、歴代委員にも送付し、また前号の反省事項としてあった取材に協力してもらった「武蔵村山病院」及び「アルカディア」にも配布した。 - 質疑・意見等 - 特になし。 2 議 題 (1)平成20年度男女共同参画推進市民委員会について 市民委員会の運営について (事務局)この委員会の運営について、開催頻度や内容などの意見、要望があれば、聞かせてもらいたい。 (委員長)今回話してもらったことが、来年度の委員会運営につながるので聞かせてもらいたい。 (委員)YOU・Iフォーラムの開催日時が例年の3月から11月末に変

更した結果、「いつも3月だったのに」という声が多く聞かれたので、時期の検討を来年度はもう一度見直し、また講演会当日の大ホールの状況を確認すべきである。この委員会に初めてかわり、今までは市のことに無知であったが、いろいろな事業が行われていることを初めて知った。私の周りでもそういう人は大勢いるので、もっと宣伝をするべきである。私は、講演会等に参加することができ、いろいろと勉強できた一年で良かった。

(委員) 私もこの会議自体があることを初めて知った。最初この会議ではどういうことをやるのかと思っていたが、会議を重ねるにつれて、こういうこともあるということを知った。私の周りでも、この会議があることを知らない人も多い。せっかく情報誌も発行しているのだから、いろいろな人に読んでもらい、困っている問題をみんなで考えていけるようになっていけばいいと思う。またYOU・Iフォーラムは参加者が少なかったから、次回は日程等も含め改めて検討し、せっかくのいい話なので多くの人のために聞いてもらいたい。

(委員) 会議の時間は、仕事をしていても出やすかったからちょうど良かった。会議の回数もやる内容に対しては適当であった。しかし、YOU・Iフォーラムの規模を考えると、回数が少なかったかとも思う。今まで「男女共同参画」という言葉は聞いたことがあったものの、自分にとって関心がない分野だったから、今回会議や講演会に参加して勉強になった。

(委員) どうしても1ヶ月に1度のペースの開催だと、前回の内容を忘れてしまいがちであるが、2時間の会議で年10回は妥当なのかなと思う。YOU・Iフォーラムと情報誌を発行することがメインで、ゴールがそれだけになってしまっている。せっかく違う環境の人たちで構成されている委員会なので、それ以外のゴールの設定ができたならよりいいのではないかなと思った。そうすると、会議の時間や開催回数も見直す必要もあるかもしれない。

(委員長) それ以外のゴール設定というのは、具体的な案はあるのか。

(委員) まだ漠然と考えているだけで、具体的な案は思いついていない。ただ、YOU・Iフォーラムと情報誌の発行だけでもいいと思う。

(委員) YOU・Iフォーラムと情報誌の発行だけにとどまらず、ほかにも何かあればいいとは思っていた。事務局で学習タイムを設けてくれたが、男女共同参画のことを深めるには、委員側も勉強したほうがいいと思った。やはり、男女共同参画推進市民委員として、推進していかなければいけない立場だと思うので、もう少し活発にできないかなと感じている。男性の委員もいたので、普段なかなか聞けない男性側の意見が聞けて良かった。

(委員) 市のいろいろなことを知るという意味で、委員会は勉強になると思う。また、市側としても市民委員からの意見を聞けるということも新鮮でいいかなと思う。数年前までは飛び交っていた「男女共同参画」という言葉が、最近社会でも取り上げられる機会が減っているように感じる。男女共同参画を言い換えれば、人間の平等や人権ということにつながっていくと思うが、市としては男女共同参画センターをとおしながら、施策を広げてくれれば、みんなが気づき、いい意味での発展があるのかなと思う。

(委員) 今回委員が2年目であるが、昨年度の最後の会議で私もYOU・Iフォーラムと情報誌だけの会議ではもったいないという発

言をしたと思った。自分が発言した結果、昨年度と今年度で何か変わったか考えたとき、ミニ学習タイムが加わり、男女共同参画について知ることができて良かったと思う。今後は、自分たちで勉強するとか、委員で順番に学習タイムの指揮をとるなど自発的にやる機会があればいいのかと思う。「妻が僕を変えた日」という講演会のあと、この委員会で感想を述べる機会があったが、同じ話を聞いてもいろいろな考え方があるということを改めて発見できた。

(委員) 地域のこととしてこういう取組をしているのは間違いではないが、一経営者として考えたときのんびりとやっているという印象を受けている。結果として何のためになったのか、来年度に結びつくようなことが残されてきたのだろうか。Y O U・Iフォーラムに参加して思ったが、確かにいい話を聞かせてもらってよかったが、開催するのであれば全員動員をかけ満席にするべきである。ただの祭りになってしまっていて、本当に「男女共同参画」のような言葉が芽生えてくれているのかと疑問を感じる。本当にやるのであれば、中期的な計画があり、何年度までには地域としてはこういう事業を打ち立てる、こういうことをするんだという目標があればいいが、委員をしてもその期間だけで終わってしまい、ただ分厚い資料が残るだけということが現状ではないか。かかわっているのに、何も進んでいない。本当に何をやるうとしていいのか分からない。

(委員長) どうしていけばいいと思うか。

(委員) 「男女共同参画」のような大きな問題に対しては、行政や議員が本腰で取り組んでいかない限り、ここで意見をまとめたことをやってくれるかといってもできないと思う。また、1年や2年でできることではない。最終的には市民にその意識を芽生えてもらいたいということがあるわけだが、今の経済環境でいうと人のことまで気にしてられない、男女共同参画に関心が持てない状況であると思う。やれることから始めるでもいいが、男女という言葉が書いてあるからおかしい気がする。昔の隣近所での付き合いがあったころは、男女を問わず幅広い世代の人たちと交流があり、いろいろと助け合ってきたが、今は隣に住んでいる人もよく分からないという時代である。逆にそういうところを変えていかなければいけない。

(委員) 一市民である自分が、具体的に何をやっていくことができるか、どうすれば今後につながっていくのかと思うときがある。委員で2年目、3年目を迎えると、みんないろいろな方向性を持っているとは思いますが、足元から何ができる可能性があるのかと思う。

(委員) ふれあいセンターで男女共同参画の講座も増えてきたが、それが市民への啓発、推進の第一歩になっているのかと思う。この委員会でできることは限られていると思うが、いろいろな講座も開催されているのを周りに広めたり、こういうことをやってほしいという声があるといった情報提供をしてあげれば、みんなの力になるのかと思うし、さらなる男女共同参画の一歩となるかもしれない。

(委員長) それらを聞いて、形に反映させるようになればいいと思う。

(事務局) 学習タイムはどうだったか。

(委員) 映像があれば良かった。学習タイムに関してだけではないが、

この委員会のOBの人がかかわってくれればいいと思う。知識を持っている人も多いので、声をかけてみてはどうだろうか。そこで、一つの団体として活動してくれれば、さらなる男女共同参画推進になると思う。

- (委員) ふれあいセンターの男女共同参画の活動団体登録数が少ない。
- (事務局) 他市を見ると、いろいろな活動を男女共同参画につなげて登録しているところが多い。
- (委員) 男女共同参画センターの部屋があいていてもったいない。
- (委員) 市民の人は知っているのだろうか。私はふれあいセンターに男女共同参画センターの部屋があることを知らなかったの、そこを使おうという発想はない。会議室は便利なので、市役所4階の中部地区会館の利用は多いが、ふれあいセンターの男女共同参画センターでは、それに関わる活動をしている団体でなければ利用できないとなっていると思う。なぜこんな難しい言葉を使うのだろうか。
- (事務局) 男女共同参画センターを使用する要件として、男女共同参画に関わっている団体となっている。男女共同参画とは何かといったら、男が頑張る、女が頑張るではなく、趣味のサークルであっても女性が生き生きと暮らすために必要だとするなら、それも男女共同参画の一つだと思う。
- (委員) その要件が敷居を高くしていると思う。漢字が並んでいると、拒否反応も出てしまうのではないかと。もう少し、間口を広げてみてはどうだろうか。最初からこうでなくてはいけないとすると、誰も来ないと思う。
- (委員) ふれあいセンターを使いやすくしようということで、昨年度の男女共同参画推進市民委員会で意見を出し合い、情報コーナーが気軽に入りやすくできるようにしたらどうかという話も出た。センターの使いやすさを、提案として出せないのだろうか。
- (委員) ふれあいセンターの職員も委員として参画しているので、委員会からではなく、できれば市民の声として投函してもらえたら、より利用者の声になりいいと思う。
- (委員) 確かに男女共同参画センターは入りづらい。受付の位置を入口側にするなど工夫はしているが、自動ドアがあるので余計に入りにくくしていると思う。
- (委員) 自動ドアを常に開けておいたらいいのではないかと。
- (委員) 時々開けていると、逆になぜ開けているかを聞かれてしまう。
- (事務局) 自動ドアが開いていて、中が明るい空間であれば入りやすくなるのではないかと。
- (委員) 市民総合センターでは、入口付近にテーブルと椅子があり、市民が気軽に話をできる空間がある。例えばふれあいセンターの情報コーナーで打ち合わせ等をする事は可能なのか。
- (委員) 受付に一言声をかけてもらえれば可能であるが、長時間の利用は難しい。情報コーナーは図書や新聞を静かに読むところという意識が強く、憩いの場としての発想はない。
- (委員) 情報コーナーでニットカフェを開く予定だが、本があるので現状飲物は不可である。
- (委員) 自販機があるので、そこで買ったものくらい飲むことができてもいいのではないかと。
- (委員) 自販機が、情報コーナーの中に設置されれば飲むことはできると思う。確かに、飲食が可能になれば、利用もしやすくなると思

う。

- (委員) ルールを守るとはもちろん大切であるが、遊び心、冒険心も時には必要ではないだろうか。
- (委員長) もう少し気軽に施設利用ができるようになればいいといった意見が、この委員会から出ていることを伝えられたらいいと思う。
- (委員長) 次に、情報誌「YOU・I」の発行についての意見を出してもらいたい。
- (委員) 子どものことなど、自分に直接関係している分野ではなかったこともあり、読んで楽しいという感覚はない。しかし、運営として情報誌を出すということであれば、もっとインパクトのある内容や発行するタイミングを考えてもいいのではないかと。例えば、秋のデエダラまつりに合わせて発行し、男女共同参画のブースを作るなどしてPRをしてもいいのではないかと。戦略的にきちんと一年間の流れを組むべきだと思う。広報誌も見たくなくなるようなものにしなければ、わざわざ手にとってくれないと思う。関心のなかった人に読んでもらうためには、まずは目につくところに置き、見たくなくなるような目立つ情報誌にする必要がある。
- (委員) 内容的には、一人ひとり記事を担当できて良かったと思う。自分が書くならどうするかといった想像もできた。情報誌を各施設に何部と置いていると思うが、現状どれくらい減っているのかという調査はしているのだろうか。
- (事務局) 前回もそのような話があったが、していない。今後残数の調査をしたいと思う。
- (委員) その結果を踏まえて、部数が減っている場所には今後増やす、また委員一人ひとりが近所に配布する、自治会で回覧してもらうなどすると、推進の意味があるのではないだろうか。各施設に置いてあるだけだと、すべて同じに見えてしまう。他市の情報誌を見ると、おもしろいと感じるときがたくさんあり、ほかと比べてしまうと何か違うと感じる。しかし、まだその何かが具体的に分からない。
- (委員) 何かが違うというのは、もしかしたら発行回数ではないかと思う。例えば他市では2か月に1度発行していて、ページ数も多くなくテーマは一つだけで短く簡潔な内容なのかもしれない。読んでほしい人というのは、男女共同参画を知らない人であるなら、そこにターゲットをしばれると思うので、その内容もからめたらいいと思う。また、ただ置いているだけではなく、数字できちんと残数を把握することも必要であると思う。
- (委員) 原稿を自分で仕上げたという実感がなく、やってもらったという気がしてしまう。また、情報誌が目につかない。人に配布しても、何の情報誌かまったく知られていない。発行回数が少ないのかとも感じた。年2回だと、目に触れる機会が少ないのかもしれない。
- (事務局) 今8ページあるのを、4ページにし、倍の回数を発行することにしてもいいのかもしれない。
- (委員長) どうしたら達成感を感じられるだろうか。
- (委員) 情報誌を渡したときに「何これ」と言われることが悲しい。知られていないんだと改めて実感する。結果も残せずやっているというのは感じるが、やらなかったらまったくのゼロになってしまう。少しでも気がついた人がやれば、つないでいく希望があるのかと思う。

- (委員)取材に行くことが大変だった。やってみて、自分のためになってしまっていると感じる。人のためになっているのだろうか疑問を感じる。例えば、冊子を作ったとしても、掲示板で知らせたらどうだろうか。掲示板なら見る人も多いと思うので、目につきやすいと思う。
- (委員)情報誌が目につれないことが残念であった。家に置いてあるより、図書館で配布してもらえたらと思い、近くの図書館にお願いしたら、考えさせてほしいとの回答だった。私的なチラシを持っていくなら分かるが、市で発行しているものを、どうしてすんなり置いてもらえないのだろうか。武蔵村山市のためなのに、非常に残念だった。
- (事務局)事務局から各図書館にお願いして配布してもらっている。
- (委員)置いてあることは承知していた。しかし、もし置くことがだめであったら、破棄させてもらうとのことであった。いろいろなところに配布してはいけないものなのかと感じた。
- (委員)学校でも情報誌が、いろいろなものと一緒に回覧されている。しかし、ゆっくり読んでいる暇もなく、次に回さなければならぬ。認知度は非常に低い。どうすれば認知度が上がるだろうか。
- (委員)自分の意見が載っている部分があるので、形は多少違って自分たちで作っているという意識はある。今回、商工会、法人会の記事を書かせてもらったので、法人会の会合のときに配布した。ふれあいセンターにも情報誌がいっぱいある。読めばいいものはあると思うが、どれだけ人の目をひきつけられるか。多くの人の手元に行くためのいい方法を考えることが今後の課題である。
- (委員)見かけたときは、各施設の情報誌の残数を気にしている。ターゲットをのぼることも必要かと思ったが、手渡し、口コミが大事かと思う。知ってほしい人に、知ってほしい情報をダイレクトに渡すという流れだったらいいのかと思う。そのために意図を持って、情報誌を作りたい。
- (委員)公共施設に行く人は頻繁に行くが、行かない人はまったく行かない。そう考えると、今情報誌を置いてある場所は、すべて公共施設である。
- (事務局)自治会で回覧するのは今後すぐに取り入れられると思う。
- (委員)商店に身近な情報誌として置いてもらったかどうか。
- (委員)営利目的でなければいいと思う。
- (委員)郵便局のATMのところに置ければ、わりと待ち時間に見てもらいやすいと思う。
- (委員)今置いてあるのは、公共施設だけだろうか。
- (事務局)そうである。今回の17号は、協力をしてもらった「村山病院」と「介護施設アルカディア」に20部ずつ置いてもらい、配布してもらおうようお願いした。
- (委員)介護施設にはなかなか行かないと思う。
- (事務局)まずは職員に知ってもらうことも、推進の一つであり広がりを見せるかと思う。
- (委員)病院の待合室に置いてもらえれば、手にとって読んでもらう機会が増えるかと思う。
- (委員)冊子としていこうとしているのか、単発のチラシなのか、それを読んだ人に何を求めているのかが明確になっていない。配り方は方法として考えればあるが、根本から見直すべき機会ではないだろうか。この委員会では、情報誌を2回作ることが目標になっ

	<p>てしまっているが、それが目標ではないと思う。</p> <p>(委員) 気持ちを伝えられる情報誌になればいい。</p> <p>(委員) 委員を2年目ということであれば違うが、初めて集まったときは、どういうことをやるのかもよく分からないので、なかなかすぐに対応できないと思う。</p> <p>(委員長) 1年目の人が2年目も継続してやってもらえるといい。そうすることで意識がつながっていき、委員会も活気がつくと思う。</p> <p>(委員) そこで、OB会が能力が発揮されるとなおいと思う。</p> <p>(委員) 経験者、未経験者が集まり、情報誌を発行してきたが、以前の情報誌と比べても少しずつ変化があり、積み重ねの中で中身も豊かになってきているかと思う。</p> <p>(委員) ふれあいセンターのページも充実していて、行ってみたいという気になる。</p> <p>(委員) 先日開催されたふれあいセンターの講演会で、参加者に情報誌を配布したところ反響はあった。講演を待っている時間があつたので、ちょうどよかったと思う。</p> <p>(委員) 時間のあるときに、配布することが効果的である。</p> <p>(委員) 厚い紙で作成し、近所の歯科医院や病院の待合室に置いておいて、読みまわしてもいいのではないか。そういうときのほうが読むと思う。薬剤師会や医師会の集まりのときに渡せば、対応してくれるのではないか。</p> <p>(委員) 家の近くに接骨院があるが、個別にお願いしていいのか分からなくて躊躇していた。そういった集まりがあるなら、ぜひお願いしてみるべきである。</p> <p>(2) その他 特になし</p> <p>(3) 学習タイム 「男性の育児休業体験記の紹介～男性の育児休業について考えよう～」 ・内閣府で募集して寄せられた、男性の育児休業体験記を抜粋し紹介。男性の育児休業取得率は、1.56%（平成17年度）であり、まだまだ育児休業は女性が取るものという意識が高いが、体験記も84通寄せられたという結果を見ると、少しずつではあるが意識の変化は見られている。</p>
--	---

会議の公開・ 非公開の別	<p>公開 傍聴者： _____ 0 人</p> <p>一部公開 非公開</p> <p>一部公開又は非公開とした理由</p> <p>(_____)</p>
-----------------	---

会議録の開示・ 非開示の別	<p>開示</p> <p>一部開示（根拠法令等： _____)</p> <p>非開示（根拠法令等： _____)</p>
------------------	--

庶務担当課	市民生活部 地域振興課（内線： 225）
-------	----------------------

（日本工業規格A列4番）